



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月6日
東

上場会社名 株式会社いなげや 上場取引所 東
 コード番号 8182 URL http://www.inageya.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 成瀬 直人
 執行役員IR担当(兼)
 問合せ先責任者 (役職名) グループ財務担当(兼) (氏名) 羽村 一重 (TEL) 042-537-5111
 管理本部長(兼)
 総務部長(兼)財務部長
 四半期報告書提出予定日 2019年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	62,022	△0.1	△536	—	△451	—	△370	—
2019年3月期第1四半期	62,079	△2.4	△412	—	△340	—	△355	—

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △797百万円(—%) 2019年3月期第1四半期 △156百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	△7.99	—
2019年3月期第1四半期	△7.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	96,693	50,890	51.7
2019年3月期	95,415	52,047	53.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 49,965百万円 2019年3月期 51,124百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	128,000	1.3	400	—	500	—	200	—	4.31
通期	255,000	1.3	2,300	0.9	2,600	0.6	500	—	10.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期1Q	52,381,447株	2019年3月期	52,381,447株
2020年3月期1Q	6,030,778株	2019年3月期	6,030,715株
2020年3月期1Q	46,350,704株	2019年3月期1Q	46,435,796株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1. 2019年5月8日に公表しました2020年3月期連結業績予想より変更はございません。

2. 本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、企業の収益は継続的に回復傾向にあります。一方、海外経済においてはアメリカ、中国の両国による貿易摩擦の長期化やヨーロッパ経済圏の不確実な情勢などにより先行きは不透明な状況が続いております。

小売業界におきましては、消費者の節約志向やネット、宅配などの利便性向上による購買行動の変化、雇用情勢改善に伴う慢性的な採用難による労働コストの上昇など、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは店舗を起点とした事業を展開し、「食と人を通して地域に貢献するお役立ち業」としてお客様の健康で豊かな食生活の実現に貢献し、いなげやグループ全社を挙げて、価値ある商品、質の高いサービスを提供し、お客様から信頼され、支持されるお店づくりに取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間における経営成績は、営業収益が620億22百万円(前年同四半期比0.1%減)、売上高が598億65百万円(同0.1%減)とそれぞれ減収となりました。一方、利益面におきましては、売上総利益率は前年同四半期の水準を維持いたしました。売上総利益は165億22百万円(同0.2%減)と減益となりました。また、販売費及び一般管理費は人手不足などによる配送コストの上昇や新規出店による水道光熱費、地代家賃の増加などに伴い192億17百万円(同0.4%増)となりました。

以上の結果、営業損失は5億36百万円(前年同四半期は4億12百万円の営業損失)、経常損失は4億51百万円(前年同四半期は3億40百万円の経常損失)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は3億70百万円(前年同四半期は3億55百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は次のとおりです。

[スーパーマーケット事業]

㈱いなげやにおいては、「ヘルシーリビング&ソーシャルマーケットの実現」を経営目標に、中期2ヵ年経営計画の最終年度として「商品経営実現に向けた取り組み」としましては、快適で楽しい買い物空間、食の空間が提供できる惣菜を柱とした生鮮強化型SMの更なる進化を目指しております。「ロジスティクス活用の取り組み」としましては、プロセスセンターの更なる活用拡大により、店舗作業の軽減を目的にトータルオペレーションの構築を行っております。また「経営資源を活用した新たな取り組み」としましては、おいしさと健康を地域のお客様に提供する「新フォーマット」の開発展開を実施しております。

商品開発と売場づくりにおきましては「Ready to」「ファミリー・ヤング」「シニア」「健康」「地産地消」の5つをキーワードとして、話題性があり差別化につながるカテゴリーに着目し、核分類・強化分類を設定して開発に取り組んでおります。

さらに、お客様満足の最大化を実現するために2019年2月より「接客サービス独自化プロジェクト」を立ち上げ取り組みを開始しております。

㈱三浦屋においては「品質第一主義」を掲げ「おいしい商品開発」「おいしい商品提供」に徹し、「おもてなしの心」で接客に努めてまいりました。

お客様の来店動機となる他社と差別化された接客サービスを実施し、商品開発と売場開発は「Ready to」「ファミリー・ヤング」「健康」「地産地消」に針路を取ってまいりました。また、㈱いなげや店舗向けに商品供給を行うなど相互協力によりお互いの強みを最大限に活かして、いなげやグループとして事業価値の最大化をはかることでお客様への貢献をより一層高めております。

設備投資といたしましては、㈱いなげやにおいて川崎京町店(川崎市川崎区)の1店舗を新設いたしました。また、既存店の活性化を引き続き推進し、東村山市役所前店(東京都東村山市)、福生銀座店(東京都福生市)など合計3店舗の改装を実施いたしました。㈱三浦屋においては1店舗を閉鎖いたしました。以上により、当第1四半期連結会計期間末での店舗数は、㈱いなげやの140店舗と㈱三浦屋の10店舗を合わせて150店舗となりました。

売上高につきましては、一人当たり買上点数、客単価ともに回復傾向にありますが、客数が伸び悩み既存店売上高が前年同四半期比2.3%減となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高は490億59百万円(前年同四半期比0.8%減)、セグメント損失は7億12百万円(前年同四半期は6億18百万円のセグメント損失)となりました。

[ドラッグストア事業]

(株)ウェルパークにおきましては、2019年度は中期3ヵ年経営計画の最終年度として「骨太体質の進化に基づく店舗主導型経営の確立」に邁進し、2020年度以降の成長戦略を支える次世代型店舗運営モデルの具現化に取り組んでおります。

主な政策といたしましては、ヘルス・ビューティーの専門性を強化し、お客様の健康と美の提案を行ってまいりました。さらに、当社独自の商品と売場を通じ、「ウェルパークブランド」を発信することで、地域の皆様の「かかりつけ薬局」として、健康で豊かな生活をサポートするドラッグストアを目指して店舗作りを進めております。

設備投資といたしましては、既存店の活性化を引き続き推進し、練馬春日町駅前店（東京都練馬区）、南葛西店（東京都江戸川区）など7店舗の改装を実施いたしました。当第1四半期連結会計期間末における店舗数は前連結会計年度末から変動なく132店舗となりました。

売上高につきましては、販促媒体を最大限に活用し、来店客数の確保をはかると同時に調剤店の売上が順調に伸び、既存店売上高が前年同四半期比1.9%増となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高は106億4百万円（前年同四半期比2.4%増）、セグメント利益は1億2百万円（同29.5%減）となりました。

[小売支援事業]

デイリー食品卸し・商品製造開発を行っている(株)サンフードジャパンは、安心・安全・信頼をテーマに徹底した品質管理、お客様の立場に立った商品開発に取り組んでまいりました。店舗の警備、清掃、施設管理を行っている(株)サビアコーポレーションは、当社グループ各社に対して効率的な店舗運営の提案を行ってまいりました。障がい者雇用の推進を目的とした特例子会社(株)いなげやウィングでは労務の提供により店舗業務の支援に努めてまいりました。農業経営を行っている(株)いなげやドリームファームは、グループ店舗への農産物販売を通して地産地消を具現化することで地域の活性化を推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント別売上高は2億1百万円（前年同四半期比80.9%増）、セグメント利益は79百万円（同7.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ12億77百万円増加し、966億93百万円となりました。

流動資産は、38億13百万円減少し、292億36百万円となりました。これは主に、現金及び預金が6億83百万円、商品及び製品が3億99百万円それぞれ増加した一方で、手許資金運用の有価証券が34億円、流動資産のその他（未収入金など）が16億84百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、50億90百万円増加し、674億56百万円となりました。これは主に、土地45億7百万円増加を含む有形固定資産が52億45百万円増加した一方で、投資その他の資産が1億30百万円、無形固定資産が24百万円それぞれ減少したことによるものです。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ24億33百万円増加し、458億2百万円となりました。

流動負債は、29億66百万円増加し、340億17百万円となりました。これは主に、流動負債その他（未払費用など）が14億83百万円、買掛金が13億43百万円、短期借入金が5億25百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が5億8百万円減少したことによるものです。

固定負債は、5億32百万円減少し、117億85百万円となりました。これは主に、長期借入金が5億35百万円減少したことによるものです。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ11億56百万円減少し、508億90百万円になりました。これは主に、利益剰余金が7億18百万円、その他有価証券評価差額金が4億78百万円それぞれ減少したことによるものです。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.9ポイント下がり、51.7%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2019年5月8日公表時から変更しておりません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,748	5,432
売掛金	3,933	4,091
有価証券	9,800	6,400
商品及び製品	9,521	9,921
仕掛品	10	11
原材料及び貯蔵品	228	257
その他	4,806	3,121
流動資産合計	33,049	29,236
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,293	14,093
土地	16,543	21,050
リース資産（純額）	1,230	1,163
建設仮勘定	692	1,767
その他（純額）	2,600	2,531
有形固定資産合計	35,360	40,606
無形固定資産		
投資その他の資産	3,091	3,067
投資有価証券	8,941	8,250
長期貸付金	12	34
退職給付に係る資産	749	770
繰延税金資産	3,857	4,271
差入保証金	9,723	9,618
その他	628	835
投資その他の資産合計	23,913	23,782
固定資産合計	62,365	67,456
資産合計	95,415	96,693

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,570	17,913
電子記録債務	258	309
短期借入金	—	525
1年内償還予定の社債	20	20
1年内返済予定の長期借入金	2,790	2,629
リース債務	524	497
未払法人税等	775	266
未払消費税等	326	654
ポイント引当金	2,301	2,238
資産除去債務	7	2
その他	7,475	8,959
流動負債合計	31,050	34,017
固定負債		
社債	60	60
長期借入金	5,686	5,150
リース債務	1,260	1,182
繰延税金負債	373	382
株式給付引当金	18	19
役員株式給付引当金	19	25
退職給付に係る負債	510	515
資産除去債務	3,289	3,315
その他	1,101	1,133
固定負債合計	12,318	11,785
負債合計	43,368	45,802
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,981	8,981
資本剰余金	13,598	13,598
利益剰余金	30,933	30,214
自己株式	△6,272	△6,272
株主資本合計	47,240	46,521
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,513	3,034
退職給付に係る調整累計額	370	409
その他の包括利益累計額合計	3,883	3,443
非支配株主持分	923	925
純資産合計	52,047	50,890
負債純資産合計	95,415	96,693

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
営業収益	62,079	62,022
売上高	59,919	59,865
売上原価	43,358	43,342
売上総利益	16,560	16,522
営業収入	2,160	2,157
営業総利益	18,720	18,680
販売費及び一般管理費	19,133	19,217
営業損失(△)	△412	△536
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	47	58
受取手数料	21	23
その他	17	25
営業外収益合計	94	114
営業外費用		
支払利息	18	16
過年度消費税等	—	9
その他	3	2
営業外費用合計	22	28
経常損失(△)	△340	△451
特別損失		
固定資産処分損	65	2
その他	—	3
特別損失合計	65	6
税金等調整前四半期純損失(△)	△406	△457
法人税、住民税及び事業税	94	112
法人税等調整額	△160	△211
法人税等合計	△65	△99
四半期純損失(△)	△340	△358
非支配株主に帰属する四半期純利益	15	12
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△355	△370

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△340	△358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	141	△478
退職給付に係る調整額	41	39
その他の包括利益合計	183	△439
四半期包括利益	△156	△797
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△172	△810
非支配株主に係る四半期包括利益	16	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はございません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はございません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパーマー ケット事業	ドラッグ ストア事業	小売支援事業			
売上高						
外部顧客への売上高	49,450	10,357	111	59,919	—	59,919
セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	0	1,857	1,858	△1,858	—
計	49,451	10,357	1,969	61,777	△1,858	59,919
セグメント利益又は 損失(△)	△618	145	73	△399	△13	△412

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパーマー ケット事業	ドラッグ ストア事業	小売支援事業			
売上高						
外部顧客への売上高	49,059	10,604	201	59,865	—	59,865
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1	0	1,836	1,837	△1,837	—
計	49,061	10,604	2,038	61,703	△1,837	59,865
セグメント利益又は 損失(△)	△712	102	79	△530	△6	△536

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。